

令和7年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

育成木施業研修会の実施

令和7年8月6日(水)

令和7年8月6日(水)に国頭村にて育成木施業研修会を開催した。

本研修会は、価値の高い森林づくりに有効と考えられる育成木施業という育林方法について、県外では実績があるが、本県の造林地でも導入できないか試行・検討するために、その第1段階として県外から講師を招聘して育成木施業の基本的な考え方についての座学講義及びモデル候補地内で選木に係る現地演習を実施した。

座学講義では、育成木施業を実施するにあたって必要な準備や基本的な考え方、選木に関する技術等を学んだ。育成木施業は将来木施業といい、どのような大きさに木を成長させたいか、樹種ごとに目標径や目標径に達した際の樹冠の直径、次の施業を何年後に何をするかをあらかじめ森林所有者等が設定し、「育てたい木＝育成木」を選んで、「その成長の妨げとなっている木＝ライバル木」を伐採する間伐方法で、大径材を効率よく育て、林分構造を複雑にする。これまでの間伐方法は「成長の良くない木」を選んで伐採し優良木を残すやり方であるため、林分構造は単純化し、「育てたい木」のために必要な施業であるかは考慮されていないのが通常である。育成木施業は、育成目標を立て、「経済も環境も」を目指した施業方法であることが分かった。

現地演習では、実際に県営林内で「育成木」と「ライバル木」を選木した。「育成木」は安定性や活力、品質を根元から元玉、枝下高、樹冠の順で見て評価し、「ライバル木」は「育成木」の成長の妨げになっている木だけでなく次の施業までにライバルになりうる木も今回の伐採対象となるため、樹種ごとの成長特性や造林地の立地環境など熟練した知識や経験が必要であると感じた。

今後は、県営林内で選定したモデル候補地内で実際に育成木を選定して間伐を実証する取り組みを行っていく予定であり、森林所有者である県や市町村において、価値の高い森林づくりのサポートを続け、環境配慮の促進、地域材・県産材利用の推進につなげたい。



座学 (国頭村役場会議室)



現地演習 (国頭村佐手県営林)

(報告者：北部農林水産振興センター 田口、加藤、西岡、國吉)